

享保年度山林絵図面(1728年)に見る 天正地震(1586年)時の大規模山体崩壊と土砂移動について

岐阜大学農学部* 坂部和夫

Large-scale Landslides and Sediment Movements associated with the 1586 Tensyō Earthquake,
deduced from the 1728 Kyōhō Forest Land Map

Kazuo SAKABE

Faculty of Agriculture, Gifu University

1-1 Yanagido, Gifu, Gifu 501-1193, Japan

The 1728 Kyōhō forest land map has been discovered in Hatogaya, Shirakawa Village. It described three large-scale landslides and sediment movements associated with the 1586 Tensyō Earthquake in Hogiwaki, Shirakawa Village. The Shōgawa Kiun-Kuzure is in the middle of these damaged districts.

1. はじめに

天正十三年十一月二十九日(1586年1月18日)に天正地震が起こった。この地震により、飛騨白川村の保木脇付近で大規模山体崩壊があり、帰雲城とその城下町の埋没と城内内ヶ嶋氏理以下多数の圧死が知られている。

この大規模山体崩壊と土砂移動の記録は、今まで絵図面という形では、見付けられていなかった。そのため、僅かな史料と現地踏査から、その発生地点を推定せざるを得なかった。このたび、それを明らかにする『享保年度山林絵図面』(図1)を見つけたので、その大要を報告する。

2. 大規模山体崩壊

庄川右岸、帰雲山(1622m)の南西に延びる尾根の標高1000m~1450m付近に、国道156号線からも遠望できる、非常に明確な崩落崖がある。いわゆる「庄川帰雲崩れ」である。天正地震の時に帰雲城とその城下町を埋没させた土砂移動は、この崩落崖からのものとして、多くの報告がある[例えば、古谷・他(1984)]。

しかし、この崩落崖の東側の池ノ谷に、より大規模な崩落崖跡地が確認され、天正地震の時の土砂移動は、この東側からのものもあったかと考え

させる報告がある[安間(1987)]。

さらに、これ等の西側のカニ澤に、非常に明確な崩落崖跡地が確認される。

このたび見付けた山林絵図面には、これ等三ヶ所の崩壊状況が示されている。すなわち、カニ澤、「庄川帰雲崩れ」、池ノ谷付近に、それぞれ2ヶ所、1ヶ所、4ヶ所の崩壊地形が示されており、カニ澤では共に天然ダム状に滞水している。さらに、「庄川帰雲崩れ」には明確な崩落崖が示されている。したがって、天正地震の時に帰雲城とその城下町を埋没させた土砂移動は、これ等三ヶ所からのものであったことになる。これを図2に示す。

3. 大規模土砂移動

山林絵図面の三ヶ所からの崩壊土砂量は、西から東に順次多くなっていることがうかがえる。そして、これ等崩壊土砂量の総量は、庄川左岸の崩落堆から7700万 m^3 と推定される。

なお、庄川左岸には、国道156号線によって上段(西側)と下段(東側)に境される崩落堆がある。そして、上段崩落堆は、天正十三年(1586年)の天正地震に、下段崩落堆は、安政二年(1855年)の白川郷地震に対応すると考えられる。また、白川郷地震の時の土砂移動は、これ等三ヶ所の中央の崩落崖すなわち、いわゆる「庄川帰雲崩れ」からのものである。

*〒501-1193 岐阜県岐阜市柳戸1-1

古谷尊彦・奥西一夫・石井孝行・藤田崇・奥田節夫，1984，地震に伴う歴史的な大崩壊の地形解析，京大防災研年報，27B-1，387-396。

安間莊，1987，事例から見た地震による大規模崩壊とその予測手法に関する研究，東海大学学位論文，205pp。

井上公夫・今村隆正，1998，中部地方の歴史地震と土砂災害～主に天正地震（1586），濃尾地震（1891）時に発生した大規模土砂移動について～，歴史地震，14，57-67。



N



図2 天正地震（1586年）時の大規模山体崩壊と土砂移動の発生位置

fig.2 The site of large-scale landslides and sediment movements associated with the 1586 Tensyō earthquake